

第12回団体交流会グループワーク

(第3グループ)

日時：2017年2月18日(土)

場所：市役所南館：講堂

参加者：宮本明子(あったかファミリースクール「街角オアシス in 大阪狭山」)

中谷勝計(熟年いきいき事業実行委員会)、岡田義夫(大阪狭山市ボランティアグループ連絡会)、森岡峰実(若者自立支援センターのびのび)、仙波富恵、中西豊次、喜納政本(まちづくり研究会：福祉介護)《敬称略》

コーディネーター：支援センター/日野

【グループワーク内容】

—まず高林副市長の講演で指摘のあった団体の強みについて各団体より発表をしていただいた(以下箇条書き)—

■大阪狭山市ボランティアグループ連絡会

- ・共通の目的意識がある
- ・各自が協力的である
- ・自由に話し合える雰囲気がある
- ・社会福祉協議会が協力的
- ・積極的な取り組み意欲がある

■あったかファミリー運動 あったかファミリースクール「街角オアシス in 大阪狭山」

- ・身体表現、感情表現で相手の良いところを3つ「ほめる」を実施している
- ・笑いを取り入れている(大笑い、小笑い)
- ・来ていただいた人には、参加をしてもらい、グループディスカッション実施(歌、寸劇への参加型を取り入れ)
- ・畑でのジャガイモ堀等で、老若男女・親子に参加してもらっている

■若もの自立センター のびのび

- ・高校卒業資格を取得できる通信制高校大阪狭山キャンパスを運営
- ・子供の立場から見た学習支援を行っている
- ・学校に合っていない(行きたくない)子供たちの居場所づくり

■まちづくり研究会 福祉・介護分科会

- ・10人の小グループで小回りが利く
- ・福祉・まちづくりは今の環境のテーマに合っている
- ・横の繋がりができ、ネットワークができている
- ・情報が多くある(ネットでも、市内団体でも)
- ・他の団体等とコラボして、弱みを強みに変える
- ・立場の違いにより切口、視点が異なり、会への参加が楽しみ

- ・時流に合った活動テーマを取り入れている
- ・情報の共有と食事会を持つなど和やかな会である
- ・会を足掛かりにヒントをもらえる、自主的に活動参加に歩みださせてくれる

■熟年いきいき事業実行委員会

- ・無償ボランティアであり、市と協働するが行政の意向に左右されない
- ・事業は企画から運営、財源の確保まですべて自前で実施
- ・志を同じくする者たちの集まりなので、統一行動が取りやすい
- ・熟年市民の考え方、行動がよくわかっている。
- ・メンバー自身が他の団体とも広く関わっており、交流する範囲が広い

一次に高林副市長の講演を聞いての印象、意見について、特に 大阪狭山市の抱える課題を話し合ったー

- ・大阪狭山市は行政としての発信力が弱い。水素事業等もう少し上手く説明できると住民の理解も得られるはずだ。住民目線では見えていない部分があるように感じる。
- ・大阪狭山市には多くの団体があるが、それぞればらばらに活動していて、横のつながり、団体間の繋がりが希薄である。この結果、まちづくりにおいても団体として総合力が発揮できていないと思う。
- ・行政に各団体の背中を押す、一步を踏み出させる機能を期待できないか。こうした機能があれば、団体のコラボも強化され、全体として団体力の底上げにつながるのではないか。
- ・まちづくりについては、行政も含め、団体をまとめるオルガナイザーや旗振り役が必要と思われる。

以上